

### 地熱開発の問題点

# 温泉 クライシス

短期集中連載

<5>

温泉はデリケートだ。4月16日、熊本県を襲う大震災が起きた。熊本県阿蘇郡にある黒川温泉もかつて経験したことのない揺れが襲った。阿蘇の内牧温泉では、半数の旅館の源泉がダメージを受け、温泉が湧出しなくなつた。ケーシング(銅管)が断層の揺れで破損したのが原因らしい。黒川温泉も2カ所の源泉の泉温

黒川温泉「ふもと旅館」代表取締役社長  
日本温泉協会常務理事 松崎郁洋氏

## 松崎郁洋氏

が70度から38度まで低下した。地震の揺れで岩盤が崩壊し、地下水が流れ込んでいるようだ。温泉は生き物である。自然現象で温度、泉質、湯量に変化が起こる。高度成長期には温泉開発のため、日本中の温泉地の周辺はボーリングが全盛だった。それ以前か

## 温泉地を再生不能にする地熱開発

黒川温泉の東、直線距離で5キロの大分県九重町で、国内最大級11万キロワットの地熱発電所、八丁原発電所がフル操業を始めた。

黒川温泉は89年頃から温泉の水位の低下、泉質の変化、泉温の低下が起り始めた。当初は黒川周辺の別荘開発などに

てしまうことになる。黒川でもテレビでは表示されない地震がたびたび起こっている。八丁原には生産井、還元井を合わせれば、掘削した井戸は現在50本から100本あるといわれている。地熱発電は再生可能なクリーンな発電とは言えない。反対に温泉地を再生不可能にし、有害物質をまき散らし、自然を壊している。

ら温泉で生計を立てている者は源泉がダメージを受けるのではないかと戦々恐々としたが、どうか温泉を守り、今日に至っている。

しかし福島原発事故以来、再び再生可能なクリーンなエネルギーとして地熱発電が脚光を浴びている。1989(平成元)年、

るボーリングの影響かと推測していた。しかし、20年来黒川の温泉を調査している福岡大学の田口幸洋教授が、黒川温泉の源泉は黒川から東に2キロ先の釜地獄の地下だという研究結果を発表した。そしてその3キロ東には国内最大級の地熱発電が稼働しているという事実が愕然とした。

に次々と井戸を掘削しなければならぬ。また湧出した温泉水には有害物質のヒ素などが含まれているため、湧出物は地上には流すことほどきない。還元水の名のもとに井戸を掘削し地下に強制的に硫酸などを使って戻さなければならぬ。その結果、地下で水蒸気爆発、地震を誘発し環境汚染を起こす地熱発電は止めるべきである。